

那珂IC周辺「道の駅」整備の実現に向けたロードマップ

基本構想

基本計画

事業手法・
事業スキーム施設
整備

運営

整備・管理運営手法

- 持続可能な「道の駅」の運営にあたり、民間事業者の持つ高い集客力や経営ノウハウを取り入れることが重要
- 行政だけでなく、地域内外の民間事業者や地元の生産者が運営に参画する手法も視野に入れ、幅広く整備・管理運営手法を検討

導入機能の基本方針

休憩機能	道路利用者及び地域住民が気軽に立ち寄れ、快適に休憩できるスペースの整備
情報発信機能	道路利用者の安全の確保、及び地域の魅力を発信し、観光周遊の起点となる情報発信の場の整備
地域連携機能	
「食」でつながる機能	那珂市の農畜産物や特産品のPRによるブランド化を推進する施設、及び新規就農を促進する場の提供
「暮らし」でつながる機能	地域住民が日常的に集い、気軽に利用できる施設、及び就業・移住等の支援の場の提供
「体験」でつながる機能	地域外からの来訪者、地域住民、生産者等が集い、体験や多世代交流ができる場の整備
「子育て」でつながる機能	子育て世代の目的地となるような子育てに温かい場の提供
「デジタル」でつながる機能	ICT、IoT、AI等を活用し、多様なニーズにきめ細やかに対応したモノやサービス等の提供
交通結節機能	IC周辺の立地やアクセス性を活かした、交通利便性の向上が図れる施設の整備
防災拠点機能	地域防災機能の充実、及び「広域的な防災拠点」としての整備を検討

コンセプト

那珂でつながる 道の駅

基本理念

- ① IC周辺まちづくりの核となり、県内外の都市との連携・交流促進を図る拠点づくり
- ② 那珂市の観光資源や特産品等の魅力を発信し、市内回遊につなげる拠点づくり
- ③ 生産者との連携(つながり)により、豊かな農畜産物や特産品を購入・飲食できる施設として、産業の活性化とブランド価値向上につなげる拠点づくり
- ④ 地域住民が日常的に集い(つながり)、市民の生活利便性につながる場、及び安心・安全を支える拠点づくり
- ⑤ 次世代につながる子育て応援機能の充実を図り、子育て世代や多世代交流(つながり)を促す拠点づくり
- ⑥ サステナブルな未来に導く(つなげる)、モノやサービスが情報でつながる拠点づくり

那珂市及び那珂IC周辺地域の課題

- ・ ICを活かした周辺都市又は県内外都市との連携強化/交流促進
- ・ IC周辺に観光地が無く分散/拠点不足
- ・ 自転車をたのしみ、サイクリストを迎える“ハートのまち”
- ・ 県植物園/静峰ふるさと公園等の観光資源の活用
- ・ 市民の自発的な活動の支援
- ・ 農業の担い手の高齢化/後継者不足/収益力向上の推進
- ・ 防災機能を備えた施設整備の検討
- ・ 観光案内が不十分

需要予測

- ・ 想定利用者数: 774,532人/年(684,513~831,741人/年)
 - ・ 駐車マス数: 153台(140~161台)
 - ・ 想定売上高: 7.36億円/年(6.50~7.90億円/年)
- ※()内は繁忙期および閑散期の計画交通量からの上限值及び下限値を表す

第5回 (1/20)

導入機能・
施設規模の設定

施設の概略設計

第6回 (2月)

概算事業費

整備効果

- ・ 道の駅設置による効果
- ・ 地域への波及効果

可能性調査

- 【プレヒアリング調査】
- 公設民営(指定管理)への肯定的な意見あり
- 設計段階から運営事業者のノウハウを活かせるスキームへの意見あり
- 事業条件によるが、参画に前向きな意見あり

施設
整備官民の
役割分担施設
設計各種
イベント・
商品開発官民連携手法による
事業者決定周辺環境整備・
地域振興策の実施

- ・ 道路管理者との調整
- ・ 需要調査
- ・ ツーリズム

地域との協働・連携(観光地・店舗・サービス等)

地元生産者との関係構築

運営主体の検討・構築(自治体・地域関係団体・民間企業等)

事業モニタリング